

今あるものづくりを その先の未来へ

e 建具

TATEGU

2012
福岡大会
特集号



福岡の新たな試み、
ニューデザイン展

インテリア ライフスタイルで木製雑貨の情報発信

日本のものづくりの魅力を世界に伝える

メサゴ・メッセフランクフルト

(東京都千代田区、梶原靖志社長)

主催によるインテリア産業の展示会「インテリア ライフスタイル」が6月6日から8日までの3日間、東京都江東区の東京ビッグサイトで開催された。今回は国内480社、海外172社の合計652社が出展。

最新のデザインアイテムを発信する見本市となった。

来場者は3日間合計で2万6485名。昨年よりも2000名以上の増加となった。木工関係の出展は栃木県の鹿沼商工会議所が「鹿沼のすごい木工」と題し、地元の木工業者の製品を紹介。鹿沼今宮神社祭の



木製の雑貨類を扱う鹿沼の木工業者



障子を多用したジャパンスタイルカフェ

を利用し、軽量かつシンプルモダンの空間演出を提案した。

今回は企画展示として日本のもの

づくりの魅力を世界に向けて発信す

る「ジャパンスタイル」のコーナー

を設置。日本の伝統的な工芸品や伝

統技能を現代の様式にアレンジし、

世界の市場に通用する製品を企画展

示した。吉原木工所は「800年目

の組子」をテーマに据えて組子細工

を使った壁面装飾でインテリアの

演出を提案。エコアス馬路村は馬

路村産の杉材を使った木のカバンを

出品。このカバンは「MONACA

A」のシリーズ名で発売している。

ゼロワンプロダクツは天然木を突板

状にした「WOODUM」シリーズ

から様々な雑貨を紹介。天然木自在

シートと西陣織とのコラボで実現し

た「木織テナージュ」では木製のエ

コバッグやトートバッグを製造。来

場者に天然木を使った生活の魅力を

訴えた。ジャパンスタイルコーナー

内に設置された「ジャパンスタイル

カフェ」は和風建材を活用した空間

演出が特徴。障子で間仕切りを統一

し、内部の光を反射したり外部の明

るさを取り入れたりできる障子の機

能性をインテリアに活かした。

屋台行事であり重要無形民族文化財に指定されている「鹿沼ぶっかけ秋祭り」における彫刻屋台から受け継がれた木工技術を基本とし、各種の木工製品の生産拠点となった経緯を解説。鹿沼の木工業者と複数の工業デザイナーとのコラボレーションによって開発された木製品をアピールした。製品の素材は地元産の杉材が原則。その杉材を加工して食器収納箱、スノコ、大谷石と合わせた食品盛台など、生活の実用品を中心に製品を開発。伝統的な木工技術を活かした雑貨に来場者の関心が集まった。また、とちぎの技委員会が「とちぎデザイン」と銘を打った栃木県の伝統産業の製品を展示。鹿沼組子や日光彫刻などの技術を応用した工芸品を多数展示した。システム収納家具製造のウスイワークス(usuiworks)はOSBを使った家具を展示。椅子や机の天板にOSB